

平成30年11月30日
記者発表

平成30年度和歌山県文化表彰について

平成30年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
小林 稔 侍	77	東京都	かつらぎ町	俳優

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
酒井 政 利	83	東京都	有田市	音楽プロデューサー
佐山 和 夫	82	田辺市	田辺市	ノンフィクション作家
向山 精 二	72	海南市	海南市	国際交流

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
杵屋 多 佳	66	和歌山市	和歌山市	長唄三味線
細 将 貴	38	東京都	和歌山市	生物学者
那智の扇祭り保存会	58	那智勝浦町	—	民俗芸能の伝承

(年齢は平成31年1月31日現在)

2 表彰式

(1) 日時 平成31年1月31日（木）14時～

(2) 場所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、^き徽章（メダル）並びに副賞をお贈りします。

4 沿革

昭和39年度より実施、本年度で55回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

平成31年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。

（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

担当課	文化学術課
担当者	藤山・島本
電話	073-441-2050（内線2050）

平成30年度和歌山県文化賞

小林 稔侍(本名 小林 稔侍)

住 所 東京都渋谷区
出身地 和歌山県伊都郡かつらぎ町
生年月日 昭和16年2月7日

◎ 業績及び経歴

昭和34年に和歌山県立笠田高校普通科卒業後、映画の道を志し、上京。東映第10期ニューフェイスに合格、1年間の養成期間を経て、昭和37年に東映に入社。昭和55年からは、鈍牛倶楽部に所属。

昭和40年に映画「地獄の波止場」でデビュー。以後、任侠映画を中心に脇役として活躍。特に深作欣二監督の「軍旗はためく下」(昭和47年)、「仁義なき戦い」シリーズ(昭和48年～49年)でピラニア軍団のひとりとして活躍する。

昭和53年映画「冬の華」の板前役を好演、以来、映画、テレビドラマで活躍。昭和61年には、NHK連続テレビ小説「はね駒」で実直な父親役を演じ、一躍名を高め、昭和62年映画「夜汽車」では日本アカデミー賞優秀助演男優賞を受賞。

平成2年には、テレビドラマ「なんでも屋探偵帳」で初主演。このほかにも平成10年から現在まで続く人気シリーズの「税務調査官・窓際太郎の事件簿」など、多数のテレビドラマの主演も務める。

なかでも、平成12年には、大部屋時代からの恩人高倉健主演の映画「鉄道員(ぽっぽや)」で日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞し、日本を代表する映画俳優としての地位を固めた。

また、映画「学校Ⅲ」(平成10年)以降、「たそがれ清兵衛」(平成14年)、「東京家族」(平成25年)「母と暮らせば」(平成27年)など山田洋次監督作品に多数出演している。

俳優活動の傍らで、平成23年からはかつらぎ町観光大使を務めるなど和歌山に対する思いも熱く、その貢献は図りしれない。

さらに、平成30年には「星めぐりの町」で76歳にして映画初主演を果たすなど、スクリーンやテレビの世界で活躍してきた氏は、悪役から寡黙な父親役さらにはユーモア役まで幅広い役柄をこなし奥の深い演技で人々を魅了し続けており、その姿は本県の誇りである。

■ 現 在

・俳優

◆ 主な表彰歴等

昭和62年 「夜汽車」日本アカデミー賞
優秀助演男優賞
平成元年 和歌山県文化奨励賞
平成12年 「鉄道員(ぽっぽや)」日本アカデミー賞最優秀助演男優賞
平成14年 「ホテル」日本アカデミー賞
優秀助演男優賞
平成25年 橋田賞

平成30年度和歌山県文化功労賞

さか い まさとし
酒井 政利

住 所 東京都杉並区
出身地 和歌山県有田市
生年月日 昭和10年11月17日

◎ 業績及び経歴

昭和10年有田郡保田村(現有田市)に生まれる。昭和33年に立教大学卒業後、映画制作を志し松竹に入社するもまもなく退社し、その後、日本コロムビア、CBS・ソニー(現：株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント)の音楽プロデューサーとして、南沙織、郷ひろみ、山口百恵等の強力な布陣でアイドル全盛時代を創り上げ、また、矢沢永吉、ジュディ・オング等によるマス・メディア戦略を展開、レコード業界の黄金期の礎を築いた。

活動分野は音楽にとどまらず、映画や舞台、TVドラマの企画・制作などにも及ぶ。

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント取締役エグゼクティブプロデューサーを経て、平成8年、(株)酒井プロデュースオフィスを設立。活躍の場は更に広がり、芸術・文化・メディアのトータルプロデュースを手がける一方で、テレビコメンテーター、各種音楽賞の審査員、さらには、ソニー時代にカウンセラー養成所に通った経験を活かし、カウンセリング業務を行うなど、マルチな才能を発揮している。

今日まで半世紀以上のプロデュース活動により、世に送り出したアーティストは350人余り、売り上げ累計は約5,500億円にのぼると言われ、芸能界では「伝説のプロデューサー」として、その名を知らない者はいない。

平成17年12月には、これらの功績が認められ、音楽業界初の文化庁長官表彰を授与された。

精力的な活動の一方で、平成18年以降南紀おやじバンドコンテストで審査員長を務めるほか、町制60周年を記念した上富田町のイメージソング「ただいま故郷」「鳳凰の町」の制作も行うなど、故郷和歌山に対する貢献も多大である。

氏の日本を代表する音楽プロデューサーとして、さらにそれにとどまらない幅広い活躍は、日本の音楽文化の向上と発展に大きく寄与し、功績は誠に多大である。

■ 現 在

- ・音楽プロデューサー
- ・メディアプロデューサー
- ・株式会社酒井プロデュースオフィス代表取締役社長
- ・日本ストリートダンス協会非常勤理事
- ・日本レコード大賞 審査副委員長
- ・日本作詩大賞 審査委員長

◆ 主な表彰歴等

- 昭和39年 第6回日本レコード大賞
「愛と死をみつめて」
(歌唱：青山和子)
- 昭和54年 第21回日本レコード大賞
「魅せられて」
(歌唱：ジュディ・オング)
- 平成17年 文化庁長官表彰

平成30年度和歌山県文化功労賞

さ やま か ず お
佐山 和夫

住 所 和歌山県田辺市
出 身 地 和歌山県田辺市
生年月日 昭和11年8月18日

◎ 業績及び経歴

和歌山県立田辺高校より慶応義塾大学文学部英文学科に進み、昭和34年に同大学を卒業後、会社員や高校教師の職を経て、昭和52年に「田辺イングリッシュ・アカデミー」を設立し、学校運営の傍らで、執筆活動を始める。

昭和59年に、大リーグの外にあったニグロ・リーグの大投手を描いたノンフィクション作品『史上最高の投手はだれか』を発表。この作品は、多角的な追跡調査をもとに書かれた作品として高い評価を受け、第3回潮ノンフィクション賞を受賞、またアメリカ野球学界でも賞賛され、野球殿堂で永久保存されている。平成7年には、アメリカ文化の紹介に貢献したことに与えられるジョセフ・アストマン賞を日本人として初受賞。平成10年には、ニグロ・リーグについての著作と翻訳に関して、アメリカ野球学会のトウィード・ウエップ賞を受賞、さらに平成19年には、『20世紀最高のスポーツマンはだれか』の著作により、ペンシルベニア州ジム・ソープ市の名誉市民号を授与されるなど、国内のみならず米国でも功績が高く評価される。

また、野球事情に精通した氏は、(公財)日本高等学校野球連盟顧問も務めており、野球界の発展にも大きく貢献している。

スポーツを題材にしたものが多数を占める氏の作品の中で異彩を放つのが、18世紀末に串本町に來航したアメリカ船レイディ・ワシントン号の史実を描いた『わが名はケンドリック』である。作品発表後も氏は日米双方で関連する資料の収集調査を続け、平成27年には、より詳細に記した『ペリーより62年も前に』を発表した。氏は「日米交流の原点を知ってほしい」と、この史実の探求をライフワークとし、現在も精力的に活動を続けている。

さらに、平成27年発表の『金栗四三ー消えたオリンピック走者』は、2019年のNHK大河ドラマ「いだてん」のきっかけとなるなど、氏の作品は各所に影響を与えておりその功績は多大である。

■ 現 在

- ・ノンフィクション作家
- ・アメリカ野球学会会員
- ・公益財団法人日本高等学校野球連盟顧問
- ・選抜高等学校野球大会21世紀枠特別選考委員
- ・阪神甲子園球場歴史館顧問
- ・NPBゴールデン・スピリット賞選考委員

◆ 主な表彰歴等

- 昭和59年 第3回潮ノンフィクション賞
- 昭和59年 和歌山県文化奨励賞
- 平成5年 第4回ミズノスポーツライター賞
- 平成7年 ジョセフ・アストマン賞
- 平成10年 トウィード・ウエップ賞

平成30年度和歌山県文化功労賞

むかいやま せいじ
向山 精二

住 所 和歌山県海南市
出身地 和歌山県海南市
生年月日 昭和21年3月6日

◎ 業績及び経歴

昭和21年海南市に生まれる。

串本沖でのトルコ軍艦エルトゥールル号遭難事件（明治23年）の壮絶な救出劇や、イラン・イラク戦争中のテヘラン邦人救出事件（昭和60年）に感銘を受け、平成21にこれらを題材とした「紀伊の国交響組曲」の第5楽章「友情」を作曲し、“2010年トルコにおける日本年”にあたる平成22年7月に東京及び大阪において、9月には串本町並びにトルコ共和国のメルシン、イスタンブール及びアンカラにおいて、オーケストラや合唱団を指揮し演奏会を行った。

平成29年には、イタリアのローマでも「争うよりも助け合いを」を演奏テーマとし、トルコ共和国大統領交響楽団とともに演奏会を開催し、トルコ共和国観光文化大臣から感謝状が贈られた。

さらに、今年（平成30年）11月29日には、米ニューヨークのカーネギーホールで、トルコ人による交響楽団ニュー・マンハッタンシンフォニーとともに日本とトルコの友好関係をテーマに、世界平和を訴える演奏会を開催し、救出劇の映像なども披露、さらに演奏後にはテヘラン邦人救出劇の現場にいた客室乗務員や救出された邦人が登壇し、日本とトルコ共和国の命をかけた救出劇を世界に発信した。

氏は、1世紀を超えて続く日本とトルコとの固い絆、そして平和をこれからも訴えていきたいと意欲を見せている。

「世界中で争いが絶えない中、両国が命を懸けて助け合った強い絆を発信してくことで、世界を平和に」と行動する情熱あふれる氏の姿勢は、国内外で賛美されている。

このような、音楽と映像を通じて両国間における友好の歴史を印象づけ、両国民が培ってきた長年の友好関係の一層の深化に大きく寄与した氏の功績は多大である。

■ 現 在

- ・特定非営利活動法人「エルトゥールルが世界を救う」特別顧問

◆ 主な表彰歴等

平成23年 和歌山県知事表彰

平成30年度和歌山県文化奨励賞

きね や た か かたおか あき こ
杵屋 多佳 (本名 片岡 明子)

住 所 和歌山県和歌山市
出身地 和歌山県和歌山市
生年月日 昭和27年11月20日

◎ 業績及び経歴

昭和43年に長唄家元杵屋俊二(13代目杵屋喜三郎)に入門、昭和46年に名取を許され、杵屋俊叟となり、関西での演奏や舞台公演に多数参加する。

平成19年に芸名を杵屋多佳と改め、和歌山・大阪を中心に、長唄三味線の演奏者養成に努めている。

また、県内では数少ない邦楽演奏家である囃子方で氏の夫・藤舎呂鳳氏と「かしくの会」を和歌山市で主宰し、初心者の手ほどきからプロの演奏家の養成まで、長唄三味線や囃子、座敷唄など三味線音楽の伝承・普及に長年にわたって取り組んでいる。

特に、近年は和歌山の伝統文化の活性化にも積極的に携わり、平成24年には紀州東照宮の祭礼である和歌祭の餅搗踊(もちつきおどり)の囃子音楽の復興や、平成30年度文化庁支援事業である長唄と田辺祭の囃子「田辺祭を世界に発信!」に尽力。また、和歌山市の歓楽街新内(あろち)でかつて栄えた花街に伝承されたお座敷文化をテーマにしたワークショップの企画など、和歌山城下の伝統文化を継承する活動も積極的に行っている。

そして、平成27年からは毎年、関西大学博物館で文化庁と関西17大学博物館の連携的取り組み「大学の扉を開く」において、「上方唄」、「黒御簾音楽」、「文楽・長唄・囃子・ギターとの三番叟」を企画し、出演している。

さらに、和歌山県人会「シアトル紀州クラブ」110周年記念式典出演をはじめ海外でも演奏を披露する等、新しい邦楽の可能性を探求しており、活動の幅は国境やジャンルを超え広がりを見せている。

このほか、県内外の若い世代のミュージシャンとの音楽交流イベントも精力的に行い、ジャンルを問わずに幅広い交流の輪を広げ、邦楽とクラブ音楽とのコラボレーションなど、音楽を通じた新しい和歌山の文化の振興にも貢献し注目を集めている。

このように氏は、幅広い音楽活動を展開しており、奏者としてまた指導者としても今後一層の活躍が期待されている。

■ 現 在

- ・邦楽グループ「かしくの会」主宰
- ・長唄三味線方
- ・一般社団法人
長唄協会関西支部会員・事業部委員

◆ 主な表彰歴等

昭和47年 和歌山市東廓料理組合奨励賞

平成30年度和歌山県文化奨励賞

ほそ
細

まさき
将貴

住 所 東京都文京区

出身地 和歌山県和歌山市

生年月日 昭和55年8月22日

◎ 業績及び経歴

昭和55年に田辺市に生まれ、和歌山市で育つ。平成15年に京都大学総合人間学部を修了、平成17年に同大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科を修士号取得退学。平成20年に同大学大学院理学研究科生物科学専攻の博士課程を修了し、同年東北大学にて日本学術振興会特別研究員となる。平成23年には同海外特別研究員としてオランダ・ナチュラリス生物多様性センターに在籍し、平成26年には京都大学白眉センター特定助教を務める。

生き物の進化や生態を研究のテーマにしており、主にカタツムリを捕食するヘビとカタツムリの左右性を題材に、捕食者・被食者の共進化と種分化についての研究に取り組んでいる。

研究により、「カタツムリを捕食するヘビは右巻きに対応するように顎が左右非対称に進化し、その結果、突然変異で生まれた左巻きカタツムリが有利になり、右巻きから左巻きの種への進化が起きた」という捕食者のヘビと被食者のカタツムリにおける進化史の一端が明らかになった。

カタツムリの右巻き・左巻きは、1個の遺伝子で決まり、種の分化に関わることが分かっていたが、この研究から生存にも大きな影響を与えるということが分かった。従来は「1個の遺伝子の変異が大きな効果を持つ場合、その変異はたいてい悪い影響を及ぼすため進化そのものにはつながらない」、また「種の分化は小さな効果を持つ遺伝子の変化の積み重なりで起こる」と考えられていたが、これらの一般則に再考が迫られることとなった。

これら一連の研究成果は高く評価され、平成26年には科学技術分野において顕著な研究業績を上げた40歳未満の研究者に贈られる文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。

さらに、一般書の執筆や講演等を通じて生態学の面白さを精力的に伝えることでも高い評価を受けており、わが国を代表する若手科学者の一人として、さらなる活躍が多いに期待されている。

■ 現 在

- ・東京大学大学院理学系研究科特任助教
- ・日本進化学会代議員
- ・種生物学会幹事
- ・日本動物学会Associate Editor at Zoological Letters
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員

◆ 主な表彰歴等

- 平成23年 日本進化学会「研究奨励賞」
- 平成26年 科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」
- 平成26年 日本動物学会「成茂動物科学振興賞」
- 平成27年 日本生物学会「宮地賞」

平成30年度和歌山県文化奨励賞

那智なちの扇祭りおうぎまつり保存会ほぞんかい

創 立 昭和35年

代 表 男成 洋三

所 在 地 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

◎ 業績及び経歴

熊野那智大社の祭礼である「那智の扇祭り」は、我が国有数の山岳信仰である熊野信仰を背景に、那智大滝に象徴される熊野の大自然よりもたらされる恩恵に感謝し、その神霊を鎮める、日本一の滝の祭礼である。祭りの起源は不明であるが、残された古記録から室町以前から行われたと推定される。

地域の安泰や大漁・萬作等を祈念し、毎年7月14日に独特の形状をした12基の「扇神輿（おうぎみこし）」に神々を遷し、那智大社と那智大滝（飛瀧神社）との間を結ぶ「御滝道（おたきみち）」に沿って渡御（とぎよ）する。

また、御滝本（おたきもと）より12本の大松明が出迎え扇神輿を浄める「御火（おひ）行事」が行われるため、「那智の火祭り」とも呼ばれ、荘厳で迫力ある祭礼を一目見ようと、全国から多くの参拝客が訪れる。

那智の扇祭りには数々の行事が伝わっており、御神前で奉納される「那智の田楽」については、昭和35年に和歌山県指定無形民俗文化財に、昭和51年に国の重要無形文化財に指定され、平成24年にはユネスコの無形文化遺産に認定された。

「那智の扇祭り」そのものについても、昭和35年に和歌山県指定無形民俗文化財となり、平成27年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

その保持団体である那智の扇祭り保存会は、県の指定を受けた昭和35年に組織化され、熊野那智大社を中核として周辺地域の氏子や関係団体が協力し、祭礼の執行及び運営を行っている。伝統ある祭りの継承が全国的な課題となる中、長年にわたりその維持保存に努め、本県の文化振興に果たしてきた功績は計り知れない。

那智の扇祭りは、自然崇拜の色合いが濃く、日本固有の信仰や祭礼を理解する上で重要とされており、保存会の末永い活動に大きな期待が寄せられている。

◆主な表彰歴等

昭和35年 和歌山県指定無形民俗文化財

平成27年 国指定重要無形民俗文化財

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 小林 稔侍 様》

感謝

戦後15～16年、人は濁流のごとく“夢”を“食”を求め東京へ・・・。

私も、その一人でした。

幸い素敵な方々に、助けられ、ただ々、生きなければと今日迄。

志の低い私では、ありますが、此の度、故郷の温かい特別な思いを賜り身の引き締まる思いです。

亡き父、母、妻と、この驚きを、分かち合いたかった。

故郷の皆様、本当に有難う御座居ました。

《文化功労賞 酒井 政利 様》

ふるさとからの朗報を頂き、心から感謝しています。

立教大学卒業後、子供の頃から夢に見ていた映像、音楽の世界に挑戦、早いもので丁度60周年を迎えようとしています。

あの頃は、和歌山は東京から遠く、年に一度のクラス会での帰省が楽しみでした。

東京、映像、音楽の世界という人ごみにもまれていると、中学高校時代の仲間たちの笑顔が何よりの励ましでした。

そして育った山裾のあの風景が、今の私の幻想力の原点なのです。

本当に有難うございました。

《文化功労賞 佐山 和夫 様》

ペリーの黒船より六十二年も前に、紀伊大島に来たアメリカ船が、単なる漂着ではなかったことは、マサチューセッツ歴史協会などの記録で明らかだった。彼らは新生国家の瑞々しい意図と公正な期待をもって来航していた。

「日本の南の海岸で、最大限の歓迎を受けた」という記録も残されている。日米交流の始まりが紀州であったという歴史的事実が、少しでも世に知られていく一步に、この受賞がなってくれればうれしい。

《文化功労賞 向山 精二 様》

私が文化功労賞を頂くのは、正に夢のような出来事であり、関係諸氏に対し厚くお礼申し上げます。社会が索漠としていた1998年、車窓から見えた景色の向こうに、「単純に心が平和」だった幼い頃の記憶が蘇った瞬間、曲が頭に浮かびました。これが音楽を通して平和を訴える私の活動の原点となりました。紀伊の国交響組曲第5楽章「友情」はエルトゥールル号の海難事故とイランイラク戦争下でのトルコ航空機による邦人救出をテーマにした曲で、その根底にある願いも「平和」の二文字です。これまで、「世界平和への訴えコンサート」をトルコ大統領交響楽団とともに、トルコ国内やイタリア・ローマで開催しました。そして、先日にはニューヨークのカーネギーホールでの公演が実現しました。世界中で争いが絶えない中で、私の活動が、世界平和への一助となることを願っています。

《文化奨励賞 杵屋 多佳 様》

この度は、和歌山県文化奨励賞を賜り、大変ありがたく、また驚きの気持ちでいっぱいでございます。私の家は私の曾祖父の代から和歌山市の三番丁で料理屋を営んでおりました。お城の周りには花街があり、芸妓さんも大勢いたと聞いております。私も17歳から新内で芸妓としてつとめた時代があり、当然のように三味線や踊り、お囃子などの稽古をしてきました。中でも特に三味線が好きで長唄の仕事に就くこととなりました。皆様に堅苦しい古典芸能ではなく、気軽に見聞きしていただける三味線音楽を広げるお手伝いをしていきたいと存じます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

《文化奨励賞 細 将貴 様》

この度は望外の賞を賜り、光栄に存じるとともに身の引き締まる思いを強く感じております。進化の不思議に魅せられて今日まで研究を続けてまいりましたが、その興味の根源は、命にぎわう水辺に遊び、野原で虫を追った少年の日々にあったに違いありません。自分を育ててくれた和歌山県に感謝いたしますとともに、学術へのさらなる貢献を決意する次第であります。

《文化奨励賞 那智の扇祭り保存会 様》

この度は、和歌山県文化奨励賞を賜り、厚く御礼申し上げます。

那智の扇祭りは室町時代以前から始まったとされ、地域の人々によって伝えられてきました。保存会では、熊野那智大社を中心に周辺地域の氏子や関係団体が協力し、祭りの保存・運営を行っており、この度の受賞は大変喜ばしく思っております。これからも、自然とともにある熊野信仰の中核をなす那智大社の大事な例大祭として守り伝えていくことにより、和歌山県の伝統文化の継承と地域の発展に貢献できればと思います。

平成30年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】



小林 稔侍

【文化功労賞】



酒井 政利



佐山 和夫



向山 精二

【文化奨励賞】



杵屋 多佳



細 将貴



那智の扇祭り保存会

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 藤山

Email fujiyama_m0003@pref.wakayama.lg.jp